

家庭科教育支援セミナー報告レポート

「家庭科における評価活動 ワークショップ編」

講師：堀内 かおる先生（横浜国立大学教授）
実教出版編集部

1. はじめに

2021年12月11日（土曜日）に弊社としては初めてのオンラインによるセミナーを行いました。これまで、家庭科教育支援セミナーは「新学習指導要領と家庭科」「18歳成年の意義や問題点」「認知症を理解する VR体験」など、家庭科の先生の関心に応じたテーマで展開をしてきました。開催場所は東京、福岡、大阪など複数箇所で行っています。

今回は新型コロナウイルス感染症防止対策をきっかけとして、初めてオンラインで実施することとなりました。今回はその様子をレポートいたします。前半は評価に関する講演、後半がワークショップの2部形式で行われました。

2. セミナーの内容

1) 講義「家庭科の見方・考え方と「逆向き設計論」に基づく授業づくりと評価」

○活動評価は児童・生徒にとっては自身の学習状況を把握し、今後の目当てを持てるようにするため、教師にとっては学びの到達度を見取り、指導に生かすためである。

○主体的に取り組む態度は知識・技能、思考・判断・表現力を身につける過程で粘り強く取り組む面と、生徒なりに学習内容への理解が深まっている面が相乗的に関わることである（スライド1）。

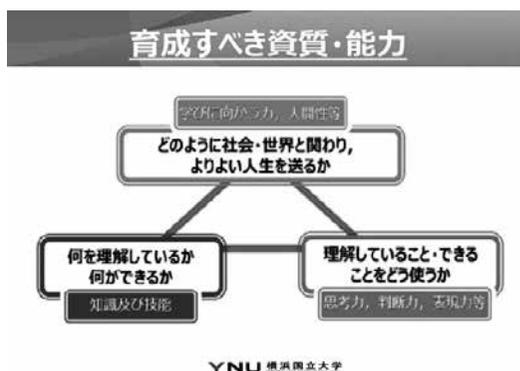
○高等学校家庭科における「内容のまとめ」と評価基準

評価規準は到達目標を達成した児童生徒の姿を文章で表現したもので、評価基準＝ルーブリックは評価規準に照らして、どの程度目標を達成しているのかを段階ごとに文章で表現したものである。

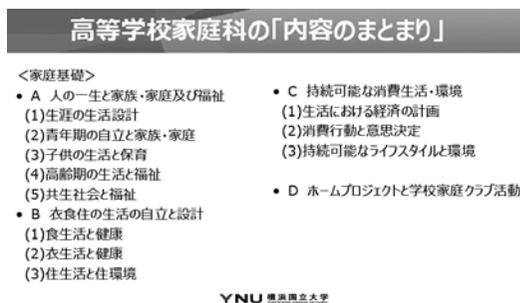
評価計画を立てるにあたっては、学習指導のねらいが児童・生徒に実現されたか、評価規準に照らして観点別学習状況の記録をとることが大切である、何を評価のための資料とするかを学習指導計画立案

の時から考えておくことが大切である。教員がどのような授業をするのかを決めて初めて評価に結びつく（スライド2）。

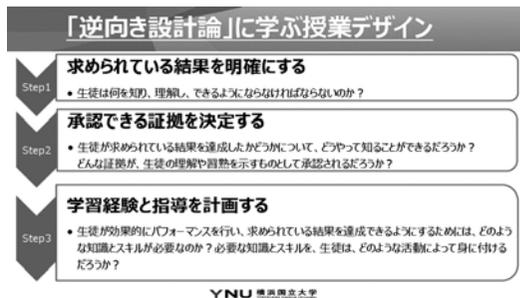
スライド1（3つの観点）



スライド2（高等学校家庭科学習のまとめ）



スライド3（逆向き設計論に学ぶ授業デザイン）



○「逆向き設計論」に学ぶ授業デザイン

Step 1は授業のねらい・目的を明確にすること、Step 2は目標に準拠した評価を決めること、Step 3は生徒に身につけさせたいものは何かを検討することである（スライド3）。

2) 感想

「逆向き設計論」、堀内先生のセミナーには必ずと言っていいほど、興味をそそられるキーワードが出てきます。

これはすなわち最初に結果・目標を決めてから指導計画を立てる考え方とのことです。その授業での目標を教員だけでなく、生徒と共有しておくことが必要であるという話は今回のセミナーでも強調されていました。教科書にも各単元に学習の目標を示していますが、これは重要なファクターなのだと改めて感じました。

つい評価規準＝ルーブリックに関心が集中しがちですが、授業計画も含めた総合的な見通しとそれにそった指導があって評価活動につながるということがよくわかりました。

3) ワークショップ：授業デザイン演習

○授業づくりのミニ・シミュレーション

学習のまとまりの中から取り組みたい単元を選び、評価規準を決め、授業の流れと使用する教材を決め、ワークシートにまとめていく。

○グループ・セッションと発表

堀内先生がホストとなり、オンライン上で2つのグループ（調理実習グループと高齢者・保育分野グループ）に分かれ、各自まとめた内容を共有し意見交換した。その後、各代表者が概要を発表し、それに対して堀内先生からご助言があった。

4) まとめ

意見交換では、実際の評価にあたっての疑問点・問題点なども共有されたようです。堀内先生からは、学習のまとまりの時間配分も大切であること、振り返り（自己評価）が意義を持つ題材もあり、製作は1時間での進捗状況が評価の材料となるなど具体的な例示がありました。

また、外部講師を招いての授業プランに対しては「社会に開かれた教育課程」にも符号しているとの心強いアドバイスもありました。外部講師による授業は必ずしも対面にこだわる必要はなく、オンラインでの展開も有効であり、対面であってもオンラインであっても、生徒に何を伝えたいかなど外部講師と事前に打ち合わせしておくことが必要であるとの助言もありました。

今回の参加者は約10名でしたが、時間はやや足りないくらいでした。北海道・関東圏・福岡など、距離を超えてご参加をいただき、オンラインならではのメリットを生かすことができました。

ご参加いただいた先生方にはお忙しい中、お時間をさいいただきあらためて御礼申し上げます。また、最後になりましたが講師をお引き受けいただきました堀内かおる先生にも感謝いたします。弊社では今後も、お授業の指導に役に立つセミナーを開催して参りたいと存じます。

堀内 かおる（横浜国立大学教授）

家庭科教育学会会長（2021年7月～）

研究分野：家庭科教育学、教師教育、ジェンダーと教育、家庭科の学習指導と評価のあり方など